

【お化騒動】 (三卷)

帝キネ 芦屋映畫

脚色者 千野 薫氏

監督者 若山 治氏

撮影者 河上 勇喜氏

主要役割

臆病な青年 里見 明氏  
大膽な少女 歌川 八重子嬢

(十月十一日 大阪芦屋遊劇場)

芦屋映畫の小品諷刺劇三篇である。三篇共諷刺劇と稱する程のものでなく、先づ笑劇程度の映畫である。三篇の中題材は古いが「罷」が一番面白く見られた。里見明氏の體男が笑はせる脚色も監督もこれが最も好い。戀の時計は脚色が拙なく、只俳優がスター揃ひの點で受けるだけ。「お化騒動」は大活の「アマチュア」俱樂部」の焼直して、前半の舞臺裏や芝居の滑稽は面白いが後半は無茶苦茶で意味なしである。撮影は河上勇喜氏のトリックが成功して居る。この種の喜劇映畫の製作も結構だが三卷を越へるべからずである。――山本 練葉――